

### 第三回館長会会議録

1. 日時:2004年6月18日(金)12:00~13:30
2. 場所:日本女子大学西生田キャンパス九十年館A棟第一会議室
3. テーマ:大学図書館サービスと業務委託
4. 参加館長名:別紙
5. 議事:

会を始めるにあたり、部会長校である永井法政大学館長より、今回の館長会のまとめは詳しい議事録

ではなく、要旨を私図協ホームページに載せる方法で行いたいとの提案があり、異議がなかったため、

その方法で各館への報告が行われることになった。

#### (1)館長会開催の趣旨:永井法政大学館長

東地区部会には、従来から館長・事務長会という会議体があったが、部会長校として2003年度総会で

廃止を提案し、その後アンケートにより加盟館のご意見を集約し、今年度から廃止された。

館長会は、一昨年、部会長校であった宮内文教大学館長が提案され、発足したものである。昨年の

館長会では、「大学における図書館の組織的位置付け」というテーマで意見交換が行われた。館長会

を定例化し、拡大強化する方向で意見交換を行い、各大学における図書館政策の参考としていきたい

と考える。

#### (2)「大学図書館サービスと業務委託」

事例報告:法政大学図書館事務部長 阿久津興一

##### ○業務委託の契機

###### a. 他大学図書館訪問

他大学を訪問し、パブリックサービスとテクニカルサービスの業務委託について、他大学の状況を調査した。

###### b. 改革へ向けて

三館(市ヶ谷、多摩、小金井)の統合に伴い、業務方針として訴えたのは、業務の効率化で

ある。また、図書館業務はサービス業であるという意識改革を図った。

##### ○業務委託への取り組み

###### a. 2003年度の取り組み

専任職員だけのサービス向上には限界があるため、2003年4月から貸出・返却サービスの業

務委託が始めた。これにより開館時間の延長、休日開館日の増加が実現され、年間開館日

数は325日(市ヶ谷図書館)になった。また、年始は5日から開館し、予想以上の利用があった。

###### b. 2004年度の取り組み

2004年4月から、図書資料発注先が基本的に統一化され、図書資料の受入・整理業務

(発注は

から配架まで)の業務委託が始められた。これは迅速な業務処理を目指したもので、最短で

4営業日で配架され、開架の和雑誌は発売日の10:00までに配架される。

##### ○業務委託化の課題・問題点

###### a. 職場での合意形成にはエネルギーが必要である。

###### b. 館員の協力が得られなければ、業務委託の仕様書作成が困難になる。

c. 予算編成時期と業務委託化の検討時期が合致しないときは、予算措置の調整が必要になる。

###### d. 十分な説明を行い、誤解による反発を教員から招かないようにする。

###### e. 理解と協力を求めても、一部の書店から反発が生まれる。

##### ○委託業者とのコミュニケーション

円滑な業務遂行のためには、コミュニケーションを十分にとる必要がある。本学図書館では、つぎの

措置が講じられている。

タ

- a. 委託業者の研修会に、図書館管理職が参加し、ミッション等についての説明を行った。
- b. 担当者レベルの打ち合わせ(週1回)、管理職レベルの打ち合わせ(月1回)、委託業者スタッフと管理職の懇談会(年1回)が開かれている。
- c. 詳細なマニュアル・報告書を提出してもらい、文書上の業務確認も行われている。

○業務委託の効果

聞や

- a. サービスの飛躍的な向上が見られ、利用者の評価が高まった。それは学生が発行する新聞やミニコミ誌での評価、図書館の行ったアンケート調査によって明らかである。
- b. 専任職員はコア業務へ専念できるようになった。すなわち、①レファレンス体制の強化、②利用者教育の改善(ゼミ担当制度の導入等)、③教員と連携した選書システムの構築、④

工学系

管理から

図書館のサービス体制の抜本的改善、⑤時間外勤務時間の減少、⑥非専任職員の労務の解放が挙げられる。

○まとめ

サービス向上

業務委託の目的はサービス向上であり、コスト削減ではないという認識が重要である。サービス向上が目に見える形で現れたため、業務委託に否定的だった教職員も理解を示すようになった。

た。

(3)事例報告に関する意見・質問

主な意見・質問は、つぎのとおりである。

行える

「大学図書館の司書には、教員や院生へサポートが行える力量が求められている。それを

ようにするための研修が欠かせない。それには業務委託が必要になる」

専任職

「本学図書館では、レファレンスは専任職員の重要な業務と位置付けている。業務委託は

員にコア業務へ注力してもらうために行われるものである」

「休日や夜間の開館時間は、委託会社に任せて問題がないのだろうか」

回避され

「危機管理、安全性、守秘義務についてマニュアルや連絡網の整備が行われれば問題は

る」

司書

「図書館司書は研究者と同等という指摘があったが、人事異動との関わりからいうと図書館

は特例になるのだろうか」

いう

「行政職は図書館の事務長クラスであり、専門職は教員の研究が分かる研究職である。そ

専門職には行政職と同等の地位が与えられるべきである」

るから、

「館員の半数は司書資格者が占める必要がある。知識や経験は重要であり、教える人がい

学ぶことができる」

材

「テクニカルな仕事を行える人材を、図書館内部で育成する必要があるのではないか」

「テクニカルサービスの面では、委託業者へ任せきりにするのではなく、指示・管理できる人

員

の育成が求められる」

「選書、利用者教育、レファレンスといったコア業務への転換が求められており、その際、教

と職員の連携を図ることが重要になる」

の導

「チームをつくって業務委託やサービス向上を目指した。夜間・休日の業務委託や機械貸出

う気

入が行われ、サービスが向上したとの評価を受けている。館員に時間の余裕と研究へ向か

持ちが生まれ、それが業務委託の効果といえる」

「開館時間を早めることを考えている図書館はあるか」

のよ

「本学では、大学院生から24時間開館を求める声があがっている」

「サービス向上を目指し、教育へのサポートを積極的に行う必要がある。FDに図書館がど

うに関われるかは、第三者評価の大きな項目である」